

緑の相談

Q & A

Q

数年前植木鉢で購入したユズを庭に植えた。実が付かなくなりました。再び実をならせるにはどうしたらよいでしょうか？

A

木の若返り現象です。鉢の中で根が十分伸びられず、時に土が乾く「鉢植え」は、植物にとつては厳しい環境で花芽が形成されやすくなっていました。

しかし、これを庭や畑に植えますと、元々若い木（接ぎ木後4、5年）ですから自由に根を伸ばし、まず茎葉を大きく、多くする成長に変わり（これを栄養成長と言います）、花芽を付けなくなります。このままでは実を付けるには十数年かかってしまいます。

こうした場合、昔は「根切り」を行いました。樹勢を弱めるためスコップで、周囲の根を切るのです。しかし、傷口から入る病原菌等の問題があり、お勧めできません。そこで、アルミ線のコイル巻きをお勧めします。

ユズの花芽形成は冬

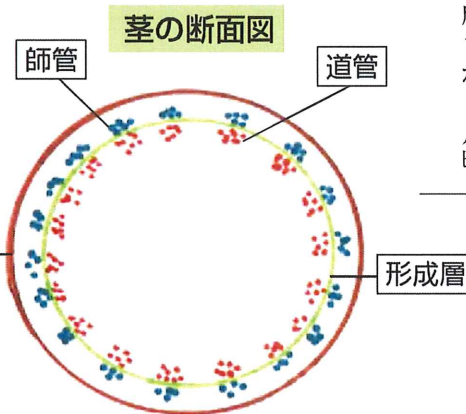
ミカンやユズなど柑橘類の花芽は12月頃から翌年3月頃に形成されるといわれています。春から伸びた新芽（新梢）の先端とその後、数枚の葉の腋芽に花芽が形成され5月頃開花・結実します。



花芽形成はC/N率で決まる

樹勢が強い木や若い木は花芽を作らず、枝や葉の伸長を優先しますが、その理由は樹体内の炭素化合物（糖類）Cより窒素化合物（アンモニアやアミノ酸）Nが多いためです。すなわち窒素化合物Nが炭素化合物Cより多いと花芽を作らず茎葉が伸び、反対に、炭素化合物Cが窒素化合物Nより多いと花芽を作りやすくなります。

そこで人為的に樹体内に光合成産物である炭素化合物Cを多くする方法が幹の「コイル



巻き」です。左図のように、光合成された炭素化合物Cは樹皮直下の師管（しかん）を通り根に運ばれますが、幹をアルミ線で緊縛することで地上部の炭素化合物Cを相対的に多くし花芽形成を促す作戦です。



写真のようにアルミ線を幹の直径の2、3倍の長さに巻きます。できるだけ隙間なくしっかりと巻き付けます。巻く時期は花芽形成の3、4か月前、ユズの場合は9月〜10月頃。アルミ線は翌年4月頃に取り除きます。上下の幹より数ミリ細くなりますが半年で元に戻ります。なお、ハナミズキ、サクラなどに夏に花芽が形成される樹木は3、4月頃にコイル巻きを行います。

(みかも山公園緑の相談所)

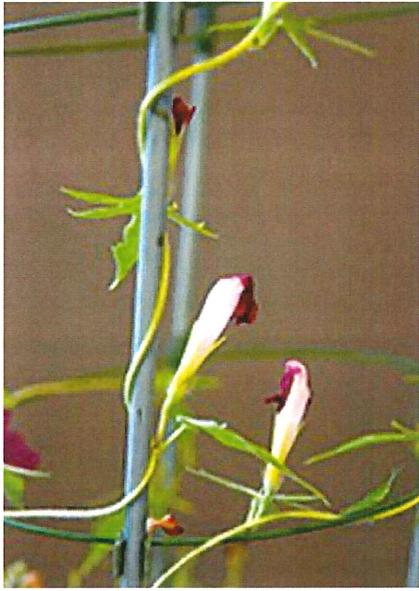
コレやってみよう!

つる植物の右巻き左巻き

夏も終わりましたが、子どものころアサガオは右巻きか左巻きかで友達と論争?した記憶ありませんか。

この問題、実は前提条件によって、左右どちらにでもなるのです。つまり、つるが伸びていく先から(上から)見るとアサガオは左巻きですが、つるを正面から見ると、左から右へ巻いているので、右巻きとなります。

以前は前者で説明されることが多かったと思いますが「学術用語集植物学編」が一九九〇年に刊行され、現在は、アサガオは右巻きとなりました。



①そこで、身近なつる植物の巻き方を調べてみましょう

ヘクソカズラ
左巻き



ヤマノイモ
右巻き

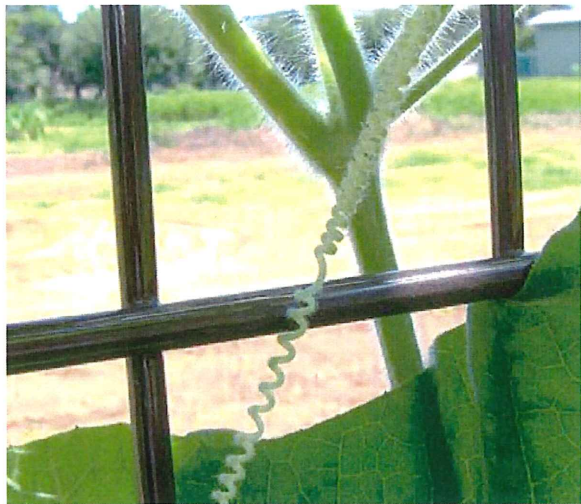


ノダフジ
(野生のフジ)
左巻き



※関西から東日本に自生しているノダフジ。ヤマフジではありません。

②キュウリの巻きひげは?



つるの中ほどで巻き方が反転しているのが分かると思います。風などで引きちぎれにくい仕組みになっています。ひと昔前の電話のコードに似ています。いや、コードがキュウリの真似をしたのです。

(みかも山公園緑の相談所)

